

通信 ともに

第59号

2018年4月13日発行
認定NPO法人ともに

ホームページ <http://www.npo-tomoni.com> ブログ <http://blog.canpan.info/npotomoni/>

設立10周年記念シリーズ 法人あのととき④

平成23(2011)年4月1日 ワークショップようてい 就労支援事業所へ

平成17年に「障害者自立支援法」が制定され、各地の小規模作業所は「就労支援事業所」へ相次いで転換していきました。しかし当法人では時期尚早の意見が多く、地域活動支援センターでの活動を継続していました。

平成22年9月30日、壮瞥町にある「合同会社農場たつかーむ」さまに法人で見学に行き、当時の自分たちの作業が就労支援事業でも可能という意見で一致し、本格的な検討を始めました。翌年3月5日、みんなで学ぼう春の拡大版開催会場だったホテル第一会館にて臨時総会を開催し、就労支援事業への移行を満場一致で承認され、4月1日から「障がい者就労支援事業所 ワークショップようてい」が誕生しました。

では、地域活動支援センターはというと「タッチ」という新事業所を開設して引き続き委託を受け、平成24年3月まで事業をしていました。現在は「NPO法人MiMaTa」さまが「地域活動支援センター 夢の匠」を開設し活動しています。



当時の作業風景（平成23年8月撮影）



地活「タッチ」の事務所

精神科医 土田正一郎の



その48 「収束癖」

物を集めたがる癖ではない（それは収集癖だ）。なんとなく世界はまとまっていなくてはならないと考えて、何事にもまとめ（落ち）を付けようとする傾向のことをいう。確かにまとまっていない話は聞きづらいし、落ち着かないし、時に何を言いたいのか分からずにイラついたりもする。ところがあいまいに漂うのも意外に気持ちの良いことだったりする。そのうち一番安定する形になる、その邪魔をしてはならない。「収束癖」は、直したほうが良い癖かもしれないね。 ともに顧問（自称）

各事業報告～3月末現在

- 障がい者就労支援事業所 ワークショップようてい
 - 契約/移行2人、B型20人
 - 見学/2人、体験/0人
- グループホーム よろこび
 - 利用者 21人（定員22人）
 - 見学/0人、体験/0人
- ◆法人会員 正会員20人、賛助会員 団体2 個人90人
- ◆29年度寄付金 のべ28人 614,892円
- ◆寄付物品 書き損じはがき 牛乳パック

編集後記 今号から「通信ともに」のデザインを一部リニューアルしました！春だから…ではなく、デザインのデータ*4が消えてしまい書き直したからです。デジタル化は便利な反面、データが消えるリスクも抱えています。気をつけたいですね。（かわさき）

正会員、賛助会員募集中！ 法人にご協力よろしくお願ひします。



アンヌプリ山頂*1から羊蹄山を望む
（3月9日みやげ職員撮影）

K. S. C. Juntos 目指すは組織的プレイ～芽室町遠征



寄贈のボール。ありがとうございました。



「難勝FC」との練習試合

ソーシャルフットボールクラブ「K.S.C. JUNTOS」は3月31日に芽室町で開かれる「ソーシャルフットボールサポーターズカップin十勝」遠征を前に練習で汗を流しています。先日(株)中山デンキさまより、フットサル用のボール5球を寄贈していただきました！通信ともにのJUNTOS記事を読んでいただき、寄付の申し出をされたとのこと。ご厚意にメンバーは「立派なボールで練習の励みになる」と喜んでいました。ありがとうございます。16日にはともにカップに2大会連続で出場した「難勝FC」との練習試合をしました。藤澤監督は「選手の間でボールを持ってからシュートまでの流れができています。あとは個人の基礎的な技術がしっかりつけばさらに良くなる」と話していました。また選手の一人は「昨年もこの遠征に参加しているので、その経験を活かしてがんばりたい」と意気込みを語っていました。印刷締め切りの都合で遠征のようすは次回に掲載する予定です。精一杯のプレイを期待しています

法人通常総会は5月16日（水）開催。希望の方は傍聴も可能です。



後志総合振興局でコロッケ販売

3月から調理部の手づくりのコロッケを、後志総合振興局のロビーで月に2回販売しています。

これは社会福祉課が「障がい者就労支援事業」として授産製品の販売スペースを提供しているものです。3月は1日と15日に販売しましたが、用意した60個は10分程度で完売してしまいました。買えなかったみなさんごめんなさい。

3月は写真のようにその場で詰めて販売しましたが、保健所の指導で今後は個別包装による販売に変更します。お近くにお越しの際はぜひ足をお運びください。

販売促進を目指す製造部



手工芸品を製作する製造部は、2月の売り上げが97,515円になりました。これは中国の春節(2月前後にある旧正月の連休)に合わせた福袋商品の販売が伸びたことによるものです。3月3、4日には「こころのピアサポートフォーラム」に出店し、参加者から好評でした。同時に新作の開発、販売先の拡大と見直しの努力を積み重ねています。3月には利用者とともに「販売目標達成おつかれさまパーティー」を開き、労をねぎらいました。



平成30年度は販売先を厳選し、より売り上げが伸びるような製造、販売計画を練っています。販売計画のひとつとして、4月14日土曜日に札幌地下歩行空間で開かれる「hand to heart」に出店します。そのほかの計画については決まりしだい通信ともなどでお知らせしていきますので、ご期待ください。

グループホーム よろこび 倶知安町福祉フォーラムに参加して

2月26日、倶知安町社会福祉協議会主催でホテル第一会館にて開かれた「第29回倶知安町福祉フォーラム」に参加してきました。

はじめに「地域の絆づくりと支えあい～我が事・丸ごとの地域を目指して」と題して、名寄市立大学保健福祉学部看護学科教授 播本雅津子氏の講演がありました。地域とは何か、近年の地域社会の課題、これからの地域づくりについての話でした。今後高齢化が進む中、住民が地域で暮らすうえで、町内会などを通じた健康づくりや支えあいが必要であることを学びました。

実践発表では倶知安町民生委員児童委員協議会会長の本間栄氏と倶知安町ボランティア団体連絡会副会長の小野幸子氏より、それぞれの活動について知ることができました。民生委員の活動として地域状況の把握および相談役、行政とのパイプ役をされていることを初めて知り、ボランティア団体は施設や高齢者世帯の除雪作業など多くの活動をしていることがわかりました。このような取り組みが地域を支えていると改めて感じました(こばやし(け))



写真は倶知安町社会福祉協議会さまより提供

自分を知り、活かす～利用者勉強会

障がい者就労支援事業所 ワークショップようてい

ワークショップようていは29年度から、月に一回週末や祝日に利用者向け勉強会を開いています。29年度は右の表のように、精神疾患や障がい、ストレスについて、薬についての理解を深めました。

3月の勉強会のテーマは「主治医と良い関係を築いていくために」でした。参加者の一人、ペンネーム「シエクター4398」さんは今回の勉強会を振り返り、「自分の症状や生活のことを主治医と相談できるようになった。笑いという副作用のない「薬」も処方してもらった。この関係をこれからも維持していきたい」と勉強会に参加したことでさらに自信を持ったようです。

勉強会の講師をしているかみよ職員によると、発達障がいの利用者も多数参加していたことを考え、30年度は当日の参加者に合った柔軟なプログラム構成にしたい、就職者の仕事の話を聞く機会をつくることを考えていると話しました。利用者が自分のことをよりいっそう理解を深め、ステップアップしてほしいと思います。

29年度開催した講座の一覧

4月	ポジティブ思考・ネガティブ思考を理解しよう
5・6月	人と良い関係をつくっていくためのコツ
7・8月	精神疾患の症状について学ぼう
9月	精神疾患はどのように診断されるのか?
10月	ストレスと症状に対処する
11月	ストレスのサインを見つける
12月	ストレスを最初の段階でどのように予防するか 対処するか
1月・2月	薬剤について役立つ知識
3月	主治医と良い関係を築いていくために



勉強会のもよう
(昨年7月撮影)

農業部 冬から春へ

障がい者就労支援事業所 ワークショップようてい

農業部は本格的な除雪作業が終わり、夏期の農作業に向けて準備が始まりました。農作業準備を前にした3月16日、農業部利用者、職員と除雪作業の振り返りと農作業に向けての意気込みを聞きました。

今シーズンの雪はいつもより格段に多かったうえ、農業部利用者の就職での卒業などが相次いだこともあり「人数が少なくなって大変だった」と言う方もいれば、「毎日の除雪で体力に自信がついた」と前向きな話もありました。

今年の農作業計画はすでにできていて、じゃがいも「さやあかね」、豆類、かぼちゃ、とうもろこしなどを植えていく予定です。農薬や化学肥料を使わない農法を継続していきます。

利用者に過重な負担がかからないよう職員は作業量を調節して提供していきますが、やはり農業部の人手はほしいとのことで、力のある利用者が来てほしいと願っていました。



鍬や鎌などを研ぎ、農作業に備える



圃場の雪割りの作業